

元気をくれた白いヒルガオ

鈴木 順子

10年位前の夏、仕事に行く途中用水路のわきに咲く白い花が目についた。それからというもの。その道を通るたびに花が気になり、バイクを止めてたびたび見るようになった。これはヒルガオの花だろうか。しかし花の色は白く、私がよく知るピンク色のヒルガオではない。葉の形も違っていた。この花はいったい何なのだろうか。と言う疑問を覚えつつも、私は毎年この美しい花が刈り取られてはいないだろうか、除草剤がかけられていないだろうかと心配しながら、白い花の帯が伸びていくのをまるで子供の成長を見守るかのやうにととても楽しみにしていた。

ある時、野の花の講座があり参加した。その中で植物を見るときはつぼみから花、そしてタネができるまで見ることによってその植物を本当に見たことになるという話を聞いた。私は花だけ見ていればそれだけで幸せで、成長過程など興味がなかったので、話の意味がその時はよく理解できなかつた。でも今では白いヒルガオを見つづける事で楽しくなり、考えを一変した。

後日その講座の先生に白いヒルガオの写真を見ていただき、やっとこの花の名前がわかった。「シロバナハマヒルガオ」と言って、名前のおり主に浜に咲く花らしい。ではなぜこんな街中に咲いているのかと言うと、おそらく用水路の工事をした時、砂の中にタネが混じていたのだろうという事だった。私はその話を聞いて、楽しいタネの旅を思い浮かべ心がはずんだ。また、植物の不思議さ、条件さえ合えば街中のコンクリートのわれ目でも繁殖する力強さにおどろかされた。白いヒルガオが毎年がんばって咲いているのを見ると、なんだか私自身も元気がたくさんわいてくる。

これから植物を見るときは、在来種が帰化植物か、または園芸品種なのかを考えながら見てまわるのも楽しいと思った。

